

経営比較分析表（平成29年度決算）

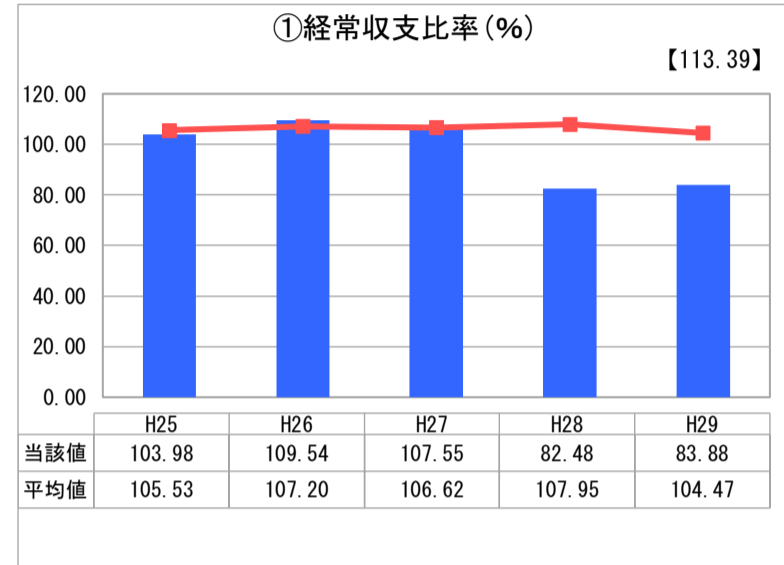
北海道 夕張市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	64.80	99.46	6,841	

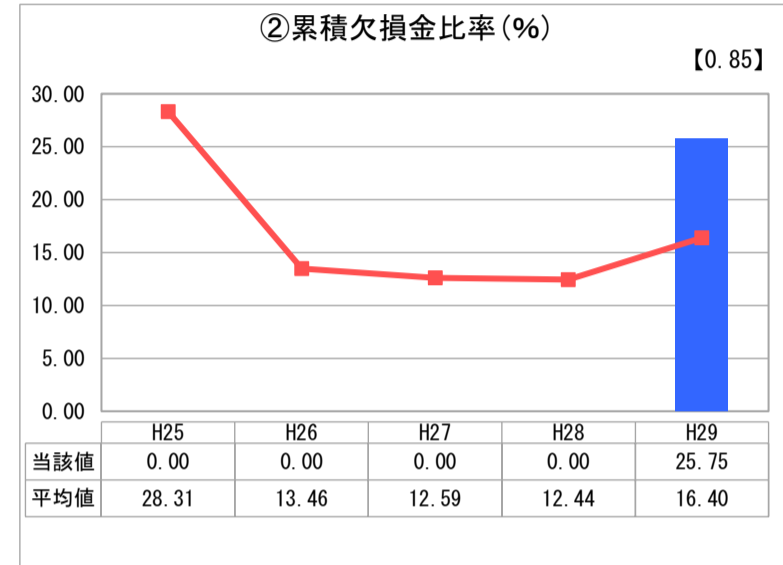
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
8,362	763.07	10.96
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,260	44.20	186.88

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成29年度全国平均

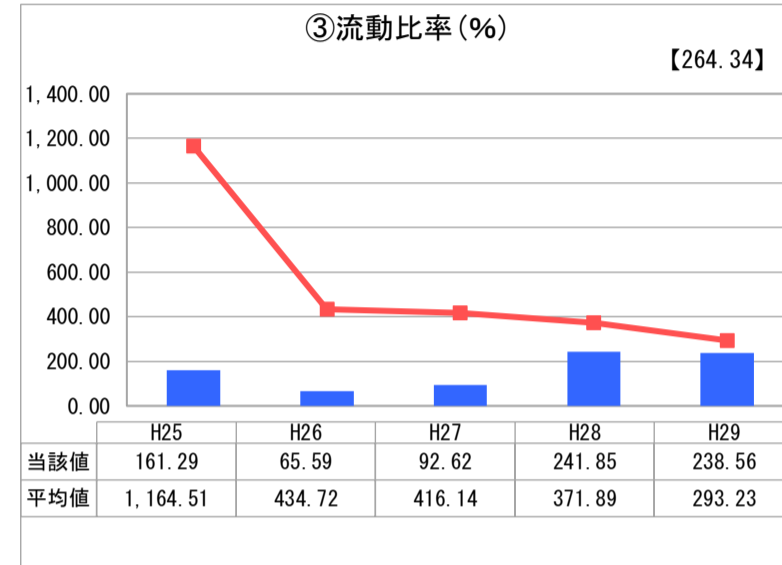
1. 経営の健全性・効率性



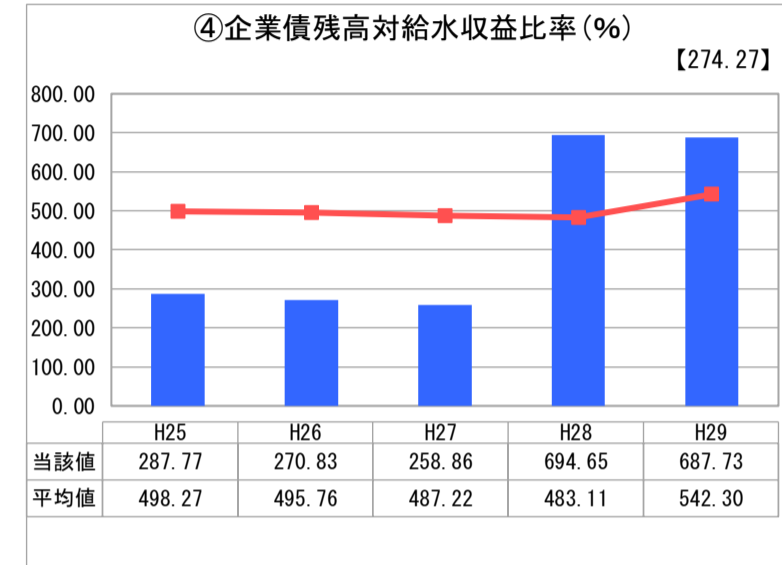
「経常損益」



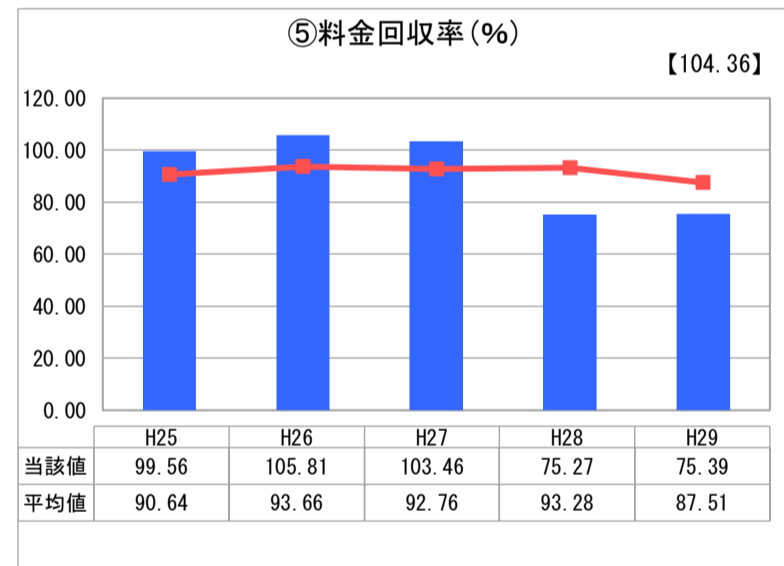
「累積欠損」



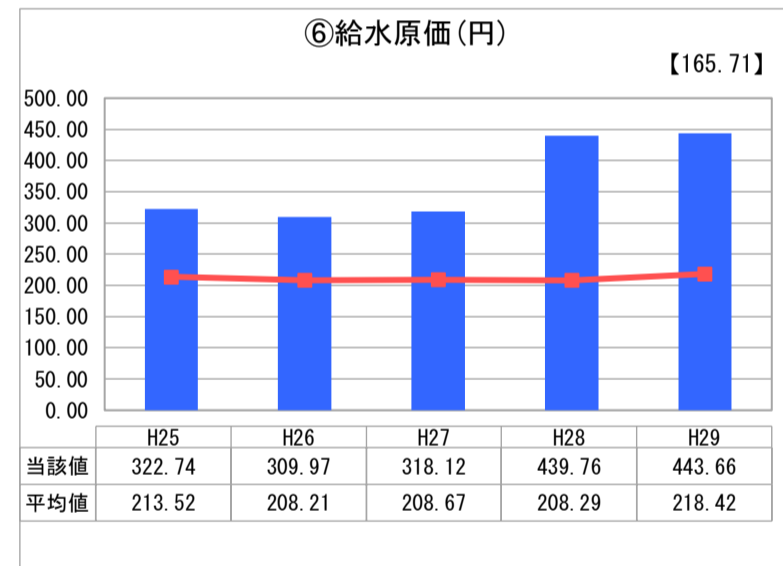
「支払能力」



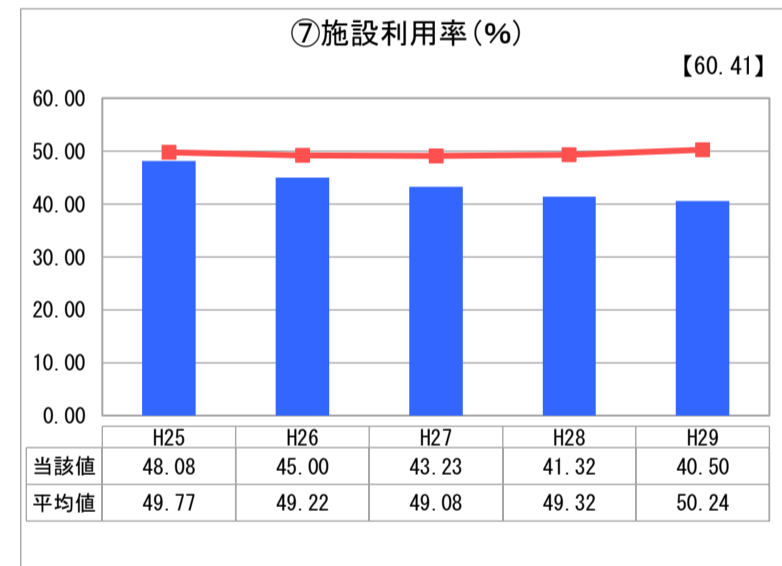
「債務残高」



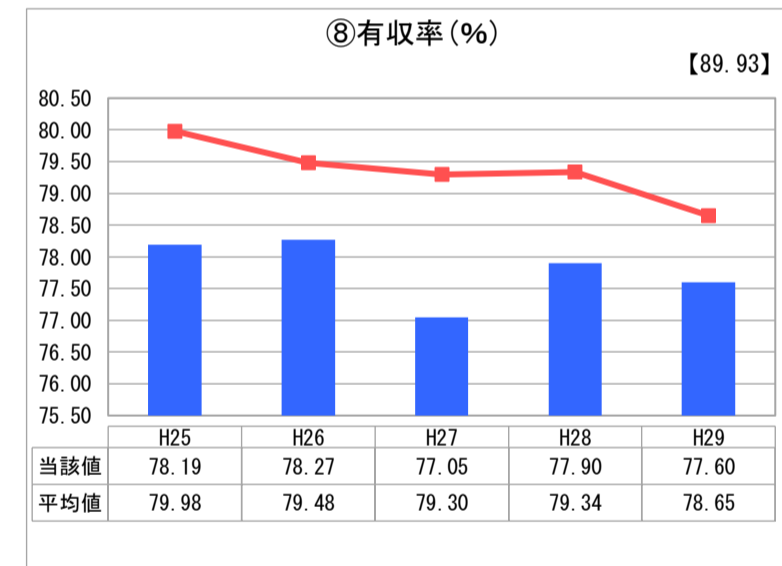
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

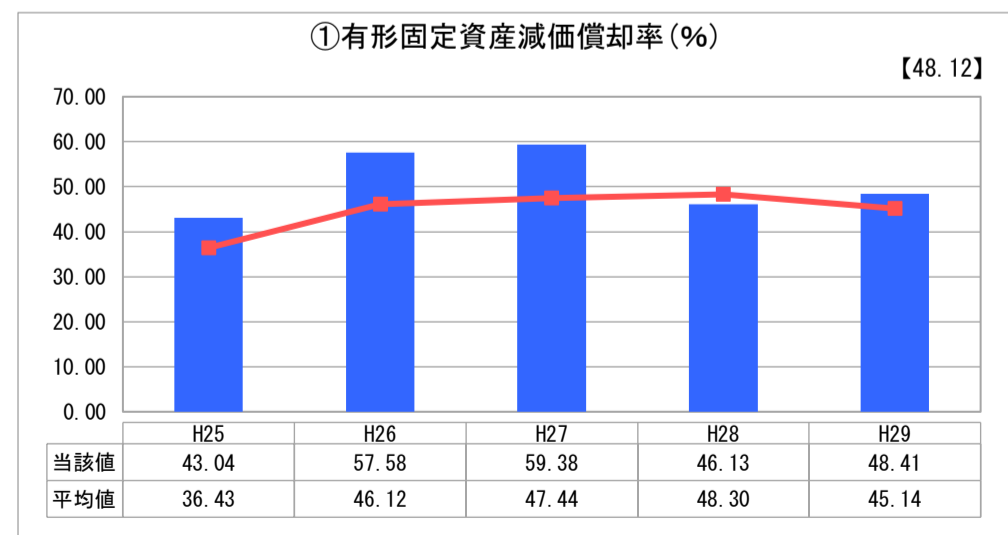


「施設の効率性」

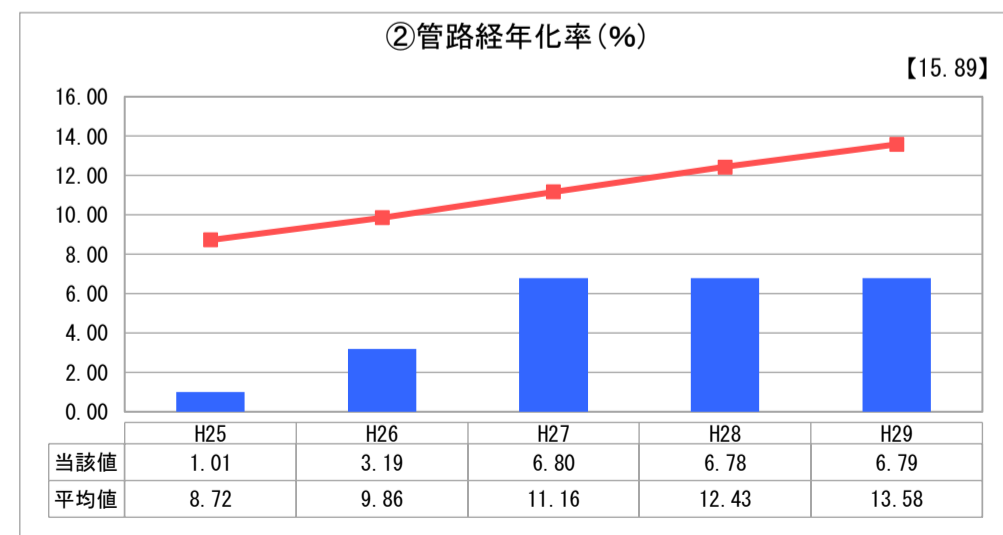


「供給した配水量の効率性」

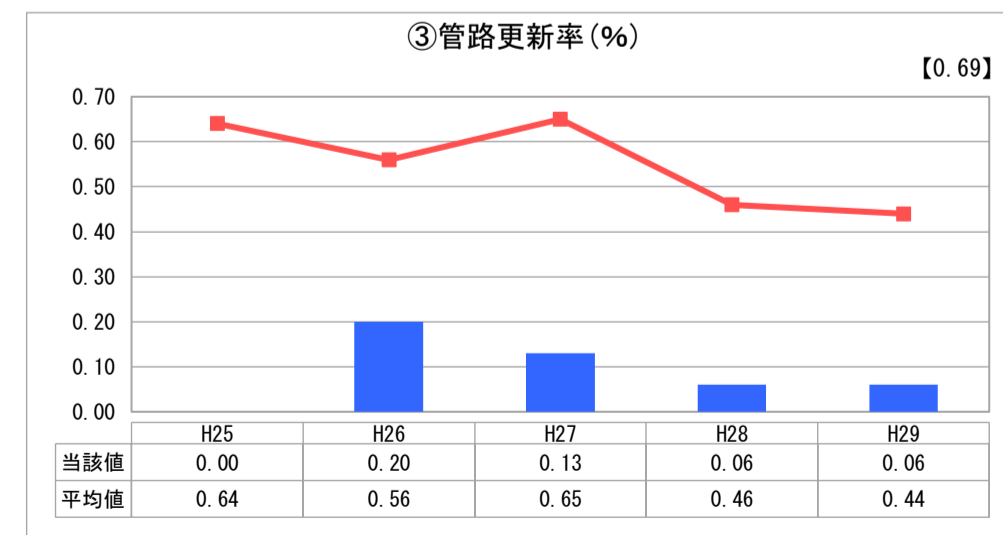
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 平成28年度に更新した浄水場等の減価償却が始まったため、100%を下回っている。今後、更なる経営効率改善に努める。
- 決算統計報告時に誤りがあったため、本来欠損金は発生していない。H29年度損失分は未処分利益剰余金で補填している。
- 毎年度100%を上回っているが、類似団体とくらべ低いことから、支払能力を高める必要がある。なお、平成26年度は平成25年度以前と比較し大幅に減少しているが、これは会計基準の見直しにより1年以内に償還する企業債を流動負債に計上することとなったための減少である。
- 平成28年度浄水場更新に伴い新たな借入が発生したため、増加した。今後、計画的に返済を行っていくことにより、改善が見込まれる。
- 給水に係る費用が増加したことにより、100%を下回っているため、経費節減等検討が必要である。
- 有収水量1m³あたりの給水原価は類似団体に比べ高い状況にあるため、経費節減等検討が必要である。
- 類似団体を下回っているため、配水能力の縮小等、効率化に努める必要がある。
- 類似団体を下回っているため、漏水調査を実施し更なる有収率の上昇に努める必要がある。

2. 老朽化の状況について

- 平成28年度に浄水場更新により前年値より数値が改善したが、法定耐用年数を迎える管路等を多く保有している。なお、平成26年度以降、平成25年度以前と比較し大幅に増加しているが、これは会計基準の見直しによるみなし償却制度の廃止に伴う増加である。
- 類似団体より低いが、平成26年度以降増加しており、今後も増加が見込まれる。
- 類似団体平均を下回っている。今後、管路の経年率が増加することを踏まえ、計画的な更新が必要である。

以上のことから、今後は法定耐用年数を迎える施設の増加が見込まれるため、それに伴い増加する更新事業をいかに計画的かつ効率的に行うかが課題となる。

全体総括

現在は平成22年度に策定した「夕張市上水道第8期拡張事業計画」に基づき経営しているが、人口減少に伴う給水収益の減少及び管路の老朽化に伴う更新事業が増加することを踏まえると、新たに更新に係る費用と経営状況を把握し、更なる経費節減及び収納率の向上に取り組み、健全な経営を維持しつつ計画的かつ効率的な施設の更新を行う必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。